

＜今、なぜ「サークル活動」や「社会教育関係団体」が大切なのか＞

○サークル活動や社会教育関係団体の活動の魅力

地域でサークルや社会教育関係団体が活動することの魅力として、一つ目は、人との交流、人と人との関係づくりを通じて「人と人とのつながり（孤立の防止）」です。

サークルや社会教育関係団体は同じ興味や趣味を持つ人たちと出会える場でもあります。知人、友人が増えることで自分の居場所を見つけることにもつながります。

二つ目は、「楽しむ場」「生きがいの場」ということです。

生きがいや楽しみはサークル活動や社会教育関係団体での活動の中ではとても重要です。

楽しんで活動し、生きがいを持って生活することで、自分がやりたいことが達成でき、満足感を得ることが期待できます。

三つ目は、自己の知識のスキルアップや向上が期待できる「学びの場」ということです。

教養を高めることで、問題解決の向上も期待でき、自己満足度も高まることも期待できます。

○サークルや社会教育関係団体が地域に存在するメリット(存在意義)

地域にサークルや社会教育関係団体が存在するメリットとしては、一つ目は「地域の活性化」です。

地域が希薄化している中、活動している団体が多く地域にあることで、興味のある活動に気軽に参加しやすくなります。参加することで地域住民の連帯意識も高まることが期待でき、地域が活性化していくことも期待できます。

二つ目は「活動を通じての横の繋がりや広がり」です。

多くの団体等が地域で活動することは、一つの団体ではできないことでも、お互いができることを協力し合うことにより、目的が達成できることが多くなります。それがきっかけで、活動の幅も広がることを期待できます。また、個人が複数の団体に所属することによる横の繋がりも期待できます。

三つめは「居場所の確保」です。

サークル活動をすることで、自分の居場所を確保できるだけでなく、活動を地域に還元することがあれば、地域の人との交流だけでなく、その還元活動が地域での居場所づくりにもなることも期待できます。

その他にも、地域にサークルや社会教育関係団体が地域に根差した活動をすることで、潤いができ、市民の精神的なサポートも期待できると考えます。

〇サークルや社会教育関係団体の活動が今よりさらに活発になることの効果

サークルや社会教育関係団体の活動が今よりさらに活発になることの効果としては、「地域力の向上」が期待できることです。

活動を通じて、人と人がつながり、それが団体同士のつながりになり、つながることで活動がさらに活発していくことが期待できます。

活発していくことは、市民が自ら地域を考えて交流していき、支え合い・助け合いに繋がっていくことも期待できます。

地域力が向上することは、暮らしやすい地域になること、最終的には郷土愛につながっていくのではないかと思います。

<サークルや社会教育関係団体を取り巻く現状や課題>

現代社会において、少子高齢化や核家族化、職住分離等が進行し問題視されています。

白井市においても同様なことが起きており、地域の間人間関係が希薄になってきている様子が伺え、そのため、地域の活力も停滞傾向にあります。

このことは、「地域力」にも大きく影響しています。

例えば、少し前は地域の子どもは地域で見守ってきていましたが、近年では、地域で子どもの成長を支えることが難しくなっており、子育ての孤立の問題（ワンオペ育児、虐待など）がクローズアップされてきています。

しかしながら、地域はいろいろなことを求められており、「地域力」の向上を期待されている現状でもあります。

こういった課題は、活動しているサークル・社会教育関係団体の活動にも影響が広がってきています。

団体からは、「メンバーが増えない（新規加入者がいない）」、「新しい活動をすることに意欲がわからない（活動のマンネリ化）」、「隣の部屋での団体が何をしているのかわからない（団体相互の横のつながりが少ない）」などの声が聞かれます。

また、地域で活動していた「子ども会」や「婦人会」、「青年団」など既存していた社会教育関係団体も、こういった課題に直面し、活動が難しくなり次々と解散してしまいました。

こういった状況がある中、まだまだ元気に活動しているサークルや社会教育関係団体は地域には多く存在しており、地域に根差した活動も行っている団体もあります。

ただ、その活動している情報は、市民に広く伝わっていません。

市民には「サークルに入りたい」「これからは地域で活動したい」と思っている人もいますが、本当に必要な人にこういった情報が伝わる手段が乏しく、加入のきっかけに結びついていません。

こういった一方で、一部の団体の中には、新規加入者の受け入れをしない閉鎖

的な雰囲気があるところもあり、活動が広がらない一因になっていることも現状としてはあります。

サークルや社会教育関係団体の中には、同じような悩みを持ちながら活動しているところも少なくありません。

しかしながら、この悩みを団体間で共有できていない状況であり、解決するために協力したり協同したりという取り組み(仕組みづくり)はできていません。

また、行政(生涯学習課)や公民館、公民館類似施設等は、サークル・社会教育関係団体が抱えている悩みを認識していながらも、具体的な支援策を講じられないでいる状況です。

＜地域力の向上を目指すためにサークルや社会教育関係団体に必要な支援＞

地域力の向上を目指すため、団体等が抱えている課題を解決するための支援策が必要となってきます。

今回、団体等が直面している課題や地域を活性化させるためという視点に重きをおき、支援策を考えていきたいと思います。

【検討課題①】

サークルや団体の加入者を増やすには？

⇒その支援策・・・(今後の議題)

【検討課題②】

サークルや団体の横のつながり、活動の横のつながりを充実させるためには？

⇒その支援策・・・(今後の議題)

【検討課題③】

「新しい団体」の立ち上げを促進するためには？

(サークルから社会教育関係団体への移行を促進する観点も含めて・・・)

⇒その支援策・・・(今後の議題)

【サークルや社会教育関係団体の活性化によって期待される効果】
地域力の向上（まちの活性化）

ワーク③より

活性化

サークル・社会教育関係団体

（生涯学習課・公民館等で把握しているサークル数【約800団体】、認定されている社会教育関係団体数【35団体(H31)】）

【魅力・存在意義】

（魅力について）

- ・人と人とのつながり（孤立化の防止）
- ・生きがいづくり
- ・学びの場

ワーク①より

（存在意義について）

- ・地域の活性化
- ・活動を通じての繋がりへの広がり
- ・居場所の確保

ワーク②より

【現状・課題】

- ・新規加入者がいない
- ・活動がマンネリ化
- ・サークル・団体同士の繋がりへの希薄
- ・高齢化や後継者不足による既存団体の解散
- ・サークル・団体の活動情報の不足
- ・仲間内だけの活動
- ・課題の共有がサークルや団体でできていない
- ・行政、公民館が課題を把握していながらも支援策を講じられていない。

委員へのアンケートより

支援

検討課題①
サークルや団体の加入者を増やすには？

支援策として・・・

検討課題②
サークルや団体の横のつながり、活動の横つながりを充実させるためには？

支援策として・・・

検討課題③
「新しい団体」の立ち上げを促進するためには？
（サークルから社会教育関係団体への移行を促進する観点も含めて・・・）

支援策として・・・

⇒ 今まで委員会で論議してきた中で、見えてきた課題（事務局案の検討課題）

⇒ 検討課題に対して、今後論議していく支援策